

< 悪魔と天使の法学入門第44話 > 司法試験の合格率

著者	星野 豊
雑誌名	月刊高校教育
巻	43
号	13
ページ	84-85
発行年	2010-11
URL	http://hdl.handle.net/2241/114516

【悪魔】 今年の新司法試験（以下、司法試験）の合格率は、受験者の4分の1くらいだったそうですね。今の司法試験には受験回数制限があるから、法科大学院の卒業生のうち、ある程度自信のある人たちが受けているはずなのに、どうしてこんなに合格率が低いんですか？

【天使】 様々な見解が主張されているが、要するに、法科大学院の設置構想の当初にあった、質の高い法曹養成教育を少数の法科大学院が担い、司法試験は法曹としての資質の最終確認のみを行う、という役割分担が、様々な事情により変質しているということだと思われる。実際、当初の構想を大幅に上回る数の法科大学院が全国に設置された関係で、優秀な学生がそれぞれ分散してしまい、学生相互間の競争を伴う教育効果が思うように上がらない、という事情は否定できない。しかしながら、いったん設置認可された法科大学院を整理縮小すること自体にも、大きな社会的コストがかかるわけであり、また、優秀な学生が特定少数の法科大学院に集中することが最善であるとも言いがたいから、受験者の数を減らして合格率を高めても事

悪魔と天使の法学入門

筑波大学准教授 星野 豊

第44話

司法試験の合格率

態は解決するわけではない。

また、合格者の実数を見るならば、当初目標とされていた年間3000人と比べれば下回っているものの、かつてと比べれば確実に法曹人口は増加しているわけであり、そのことによる問題点も同時に明らかになりつつある。そのようなことを併せ考えると、司法試験の合格率のみを取り上げて議論することは生産的でなく、現在のわが国の法律問題の現況とあるべき対応とを的確に捉え、法曹として適切な資質を持つ者の養成に効果的な制度設計を、改めて考えていくことが必要であろう。

【悪魔】 実に長々とした説明で、何度聞いても覚えられませんねえ。でも、そんな話は、司法試験改革が始まった頃から、ずっと同じ言葉で聞かされていましたけど、時代が進むにつれてどんどん問題点の方ばかりが出てきているじゃないませんか。そもそも、司法試験合格者の数はもっと増える方がいいんですか？ それとも今くらいか、あるいはもっと減る方がいいんですか？ どっちなんですか？

【天使】 そういう問題の捉え方は間違っている。わが国の法曹界にとって、質の高い法曹が着実に増加していくことが最も望ましいことであり、そのための具体的な手法として、法曹人口を当面増加させて法曹相互間の競争関係を創り出すか、あるいは法曹人口の増加を抑制して全体としての質の向上を図るか、いずれが望ましいかが議論されているわけだ。従って、司法試験合格者数のみを取り上げて議論することは問題解決としておおよそ適切でなく、むしろ合格者の法曹としての資質を冷静に観察することに、検討の主眼が置かれなければならない。

【悪魔】 そんなに複雑に考えなくても、問題の本質は明らかでしょう。司法試験の合格者の数が当初の予定どおり増えていかないのは、実際には「法曹としての知識や資質の関係で合格させられない」受験者が予想よりも多い、ということなんじゃないですか？　そして、その「法曹としての資質」とやらの教育については、法科大学院が担当しているわけですよ。それなら、法科大学院での教育内容を一から洗い直して、極端な話、法科大学院制度自体を作り替



えなければならぬはずでしょう？　なぜそういう「改革」は全然進まないんですか？

【天使】 教育全般に言えることだが、法曹としての能力や資質の向上については、受験者本人の努力が最も重要な要素であり、法科大学院といえどもその能力を効果的に伸ばすように補佐指導する存在にすぎない。同じ内容の教育を受けて、合格する者と不合格となる者の双方いることはこのためである。従って、合格者の数が増えないのは法科大学院の教育に原因があると即断することは短絡であり、初等中等教育における法教育の発展を含めた、より建設的な議論が期待されるところである。

【悪魔】 それは単なる責任転嫁ですよ。意欲を持って勉強する人に対して、決められた時間でちゃんと教育成果を挙げられないのなら、教育機関としての存在意義が疑われても仕方ないように思いますよ。まあ、この問題については、教える側の法曹としての資質が本当が一番大事なのはなんですけど、なぜかそのことを誰も言わないんですよ。